



夢見ヶ崎動物公園

開園50周年を迎えて



夢見ヶ崎動物公園の整備は、昭和47（1972）年、川崎市が政令指定都市となった記念事業の一環として、同年11月に、夢見ヶ崎公園の一角に、カニクイザル、ホンジュウジカ、小鳥など9種71点の動物を展示する動物コーナーを開設したことがきっかけになっています。

昭和49（1974）年4月には「川崎市夢見ヶ崎動物公園」として公益社団法人日本動物園水族館協会に加盟し、動物園としての第一歩を踏み出しました。

その後、年次計画により、飼育動物と展示施設の充実が進み、管理事務所や動物病院を整備しました。

昭和49（1974）年にハートマンヤマシマウマを飼育し、翌年には、日本で初めて繁殖に成功して繁殖賞を受賞、昭和54（1979）年には、アカオヒメシャクケイ、昭和58（1983）年にはマーコールでも繁殖賞を受賞し、希少動物の繁殖に力を注ぎ、また、昭和60（1984）年には、友好都市提携3周年記念して中国の瀋陽市にハートマンヤマシマウマをお贈りし、シベリアヘラジカやシセンレッサーパンダを迎える交換を行いました。

当園では、令和6（2024）年8月現在 51種281点の動物を飼育展示しており、いのちを身近に感じる施設として多くの皆様にご利用いただいております。加瀬山の自然を守る「加瀬山の会」の皆様を始め、ゆめみらい交流会、サポーターや傷病鳥獣のリハビリテーターの皆様、地域の自治会や商店街連合会、企業など様々な方々にご支援をいただき業務を行っております。

開園から50周年を迎える本年度、「市民の皆様の交流の場」としてパークセンターを整備いたしました。

夢見ヶ崎動物公園パークセンターは市民の方々の活動や交流拠点として、人と人、人と動物、人と自然など「多様で多彩ないのちを感じる施設」を目指し、様々な取り組みを実践してまいります。

今後 新たな50年、100年に向け、市民の方々に愛され、親しみを持っていただけるよう新たな魅力の創出に努めてまいりますので、ご支援等いただけますようお願い申し上げます。

夢見ヶ崎動物公園 園長

